

岐阜県立恵那農業高等学校

学校長 伊藤 昭嘉

学校住所 岐阜県恵那市大井町2625番地の17 電話 0573-26-1251

- 1 会議名 恵那農業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月20日(金)
- 3 開催場所 参観・Web会議を含めた書面開催
- 4 参加者 委員
◎大宮 康一 様 岐阜大学地域協学センター准教授
○臼田 浩通 様 岐阜県立国際園芸アカデミー教授
○岡庭 隆 様 保護司
小椋日南恵 様 えな「たべる」プロジェクトアドバイザー
楯 博子 様 恵那市立恵那西中学校長
西尾 浩余 様 恵那市立大井第二小学校長
○田口 綾乃 様 卒業生保護者
○森本 富江 様 在校生保護者
※ ◎印は来場、○印はWebで課題研究発表会を視聴いただいた委員

学校側	伊藤 昭嘉 校長	丹羽 建一 教頭
	瀬瀬 和也 事務長	水野 歩 教務主任
	野々目佳世 進路指導部長	河島 隆浩 生徒指導部長
	波多野祥子 特別活動部長	野村 祐作 農場長

5 会議の概要(協議事項)

学校および生徒の活動について

- ・マニフェスト・自己評価より
- ・課題研究発表における生徒の学習について

委員の意見

- ・専門高校の在り方として、社会人との関わりはどうか。大学でもリカレントと
いうことがあるが、専門高校には、より具体性のある技術・学びがある。大学のリカ
レントではない専門高校のリカレントは、学びたい社会人はもちろんのこと、高校生
の学びの活性化に良いかもしれない。
- ・課題研究発表会に参加させていただいて、課題設定が明確であり、計画から実施、評
価がきちんと出来ていることが分かった。専門性を手を動かして学んでいることが恵
那農高の学びの特色である。発表のための資料作り、発表の練習など、きちんと指導
が入っていることがよく伝わってくる発表会だった。このような学習方法は「自分が
何を学んできたかを口にする」手法で、学力が高まるだろう。
- ・自己評価につきましては、PDCAの流れで整理され、多くの領域分野は分かりやす
いものとなっているが整理が必要なものもある。

- ・保健厚生部の評価で「欠席・早退に対するハードルが低くなっている」とあるが、大学でも同様である。授業だけでなく、生徒会、部活動などの課外活動でも何でもよいので、自分は高校時代にこれを頑張ったという自己肯定感を持って次のステージに進める指導を期待する。職業教育とともに自己理解力や自己管理能力を高めるキャリア教育に取り組むとよりよい教育になる。
- ・課題研究発表会の発表で生徒が課題研究を通じてPDCAサイクルの考え方や、チームとしてのリーダーシップやフォロアーシップを学ぶことで社会人基礎力を高めていると感心した。恵那農高がこれからも地域農業と連携して共に進まれることを期待している。
- ・直売所「彩広場」へ直接足を運ぶことを楽しみにしている方が、学校の対応がとても親切だと喜んでくださっている。地元の観光資源を盛り立てていく活動で「花で大井姫宿らしい華やかな雰囲気を作りたい」と相談したところ寄せ植えの展示で参画していただいた。具体的な活動のある学習は、社会人になるための自信になる。そのような学習が出来る学校を生徒が誇りに思っ成長してくれるよう協力したい。
- ・恵那農業高校が地域に根ざした活動を行っていることを市民の皆さんが知っている。このような活動で、社会性やコミュニケーション能力の育成が図られる。生徒の主体性や、創意工夫を育む恵那農業高校の特徴を生かした教育を今後も期待する。
- ・専門高校だからこそ出来る経験、体験学習等の機会をさらに充実させてほしい。また、学習の様子を中学生に伝え、魅力的な学校であることが伝わるとよい。
- ・各科の特色を生かした研究であった。発表の各グループが工夫して取り組んだことが、よく伝わってきた。このような発表会を視聴して、各科の学習している内容を具体的に知るチャンスとなった。今回は、各科の代表発表であったが、全ての学科の全班の発表を聞きたい。Web参観というとても良い場の提供に感謝している。

6 会議のまとめ

このように、直接および書面にて委員より意見をいただいた。今回は、課題研究発表会を実際の参加、Web視聴など複数の方法で視察いただいたところ、多くの肯定的な意見を得た。専門高校の強みを生かした教育の展開を自信を持って進めるとともに、新しい方法で強化したい。

また、本校の教育の魅力や、培われた生徒の学力を外部的にどのように伝えるかについてもう一段の努力と工夫が必要であることの指摘もあった。職員で共有するとともに、生徒が自己理解力の一つとして、培った学力が分かり・伝えられる力を育成したい。